

## 哲学の道から法然院へ

午後から京大でシンポジウムがあり、せっかくなので早めに京都に行った。紅葉シーズンは終わったが、冬の哲学の道を歩いた。銀閣寺まで行き、そこから哲学の道に入った。

道の案内板には次のように書かれていた。「明治 23 年、東山山麓に完成された琵琶湖疏水に続く、分線沿いの桜並木約 1.8 キロメートルの散策路、これが「哲学の道」です。近隣には、銀閣寺をはじめ法然院・若王子神社・永観堂・南禅寺など、著名な社寺が点在し、京都の伝統的な歴史や文化が今も尚息づいています。昭和 43 年、地元住民の熱意あふれる環境保全整備の声に京都市がこたえ、哲学の道として整備された。以来地元住民や水道局による献身的な清掃や保全整備がはかられており、春の桜、初夏のほたる、秋の紅葉と四季折々に、市民の散策路として、喜ばれております。」

近年は市民だけでなく、観光客にも喜ばれている。南禅寺の方から歩くことが多いが、今回は銀閣寺からにした。寒い土曜の朝だったが、犬の散歩をしている人、ジョギングしている人などが見受けられた。いつもは散策路の椅子に腰かけて、しばし「哲学」にふけるのだが、寒さに震えていたので、足早に法然院に向かって歩いた。

法然院はお気に入りの寺である。なんといっても山門は風情があり、吸い込まれる感じだ。近くだけでなく、遠くからじっくり眺めるのも味がある。新緑の頃の青々とした山門が目には焼き付いているが、冬の山門もまたよいものだ。四季折々に楽しめる。京都の名高い寺社は観光客で一杯のところが多いが、ここは観光客らしき人はあまり多くない。朝早いと、ひとり静かに散策できる。



(2014 年 12 月 22 日)